

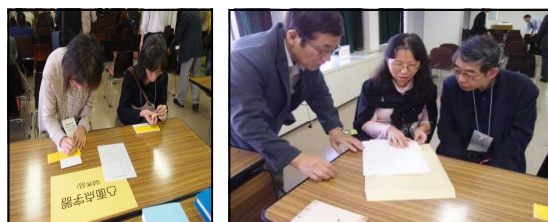
日本点字普及協会だより 第3号

(2013年11月18日)

手応えを感じたLサイズ点字や凸面点字器などのPR活動

理事 渡邊 亮

日本点字普及協会では、JR錦糸町駅前の丸井錦糸町店8・9階にあるすみだ産業会館サンライズホールで開催されたサイトワールド2013（11月1日から3日まで）の初日（11月1日）に理事3人が参加し、午後2時から2時間ほど凸面点字器（試作品）の使用体験、Lサイズ点字の触読体験（参加記念品として熊のストラップを配布）、Lサイズ点字プリンターの紹介、全視情協ホームページにある「ひとりで学べる楽しい点字」の実演、点字表示のある日用品の展示などのPR活動を行いました。体験していただいた参加者からは、“Lサイズ点字はスムーズに読めて自分には合っている”“凸面点字器は、どこで、いくらで買えるのか”などの声もあり、手応えを感じる1日となりました。



同じ会場で体験発表や和波さんの講演も行われました

今年のサイトワールドは、「学ぼう 活かそう 点字から ITまで」がテーマで、体験発表、機器体験、やさしくトーク、セミナーなど盛りだくさんの企画で開催されましたが、当協会がPR活動を行った9階の会議室1、2では、午前10時30分からイベントがスタート。皮切りは、筑波技術大学の学生たちで、若々しく力強く点字文化の重要性を宣言の形式で表現していました。

引き続き行われた体験発表「点字に救われて今がある」では、お二人の体験談が発表されました。空代さんは“大学卒業後失明し点字を勉強しましたが、得意ではなく今でも嫌いです。日常の情報収集はPC利用を中心にしていますが、街中や封筒、物品等に付けられている点字はとても便利なので点字を使っています”と、立川さんは、“15歳の頃に網膜色素変性症を発症。失明前から文庫本を毎日1冊は読むほどの読書好きでした。7年前に日点で点字の勉強を始め、現在では、千葉県内7箇所でも中途失明した人たちを対象に勉強会を開催しています。点字読書が楽しく、全部読み終わった時の感動は格別”と語っていました。司会の高橋實・視覚障害者支援総合センター理事長からは“点字図書館からカセットテープが消えたように点字が無くなっては困る。点字が無くならないようにしたい”との締め括りの言葉があり、午前の部が終了しました。

午後1時から、「点字と音楽に支えられて」の演題で、バイオリニスト和波孝禧氏

の講演が行われました。4歳からバイオリンの勉強を始めた際に点字の学習を勧められ、マッチの軸で6点を表現した母親手作りの教材で点字の学習を始めたこと、点字楽譜が少なかった中学生の頃、母親が点訳した楽譜で猛勉強し曲を覚えたこと、などを紹介。“点字に触れると音が浮かぶ、指で読んだ記憶は鮮明であり、思考回路と指とはつながっている”との表現で点字の有用性を強調されていました。

ご協力いただいた皆さんに感謝

本格的なPR活動の第1歩となった、今回のサイトワールドへの参加ですが、「共同参加」の形で場を提供してくださった視覚障害者支援総合センターの高橋實理事長、この日に合わせて凸面点字器の試作をしていただいたジェイ・ティー・アールの岡村さん、記念品用に熊のストラップを提供していただいた岐阜県の藤田商会さんに改めて感謝を申し上げ、報告の締めくくりとします。

【お知らせ】

Lサイズ点字の普及にご協力ください

先日、会員の皆さんに宛てて、Lサイズ点字の見本を郵送いたしました。ぜひこれらを活用して、Lサイズ点字の普及に取り組んでくださるようお願いいたします。必要部数をお送りいたしますので、事務局までご連絡ください。

Lサイズの見本を受け取った会員の方から、以下のメールが届きました。

さて、今日はLサイズ点字セットをお送りいただき有難うございます。初めて見ました。触ってみました。おお～6点が分かりました(笑)
今までできなかったことが出来ると、子どもみたいにうれしいですね。点字も用紙も大きいのですね。
環境を整えていくのは大変でしょう。でも、点字へのハードルは低くなりそう。
来週早速勉強会や教室へ持って行って皆に触ってもらいます。
お忙しい中、貴重なサンプルを本当にありがとうございました！

点字普及協会からの郵便物ありがとうございます。
あのようにL点字を実際触ることができるのは良いですね。
友人（見常者）が点字を指で読みたいと言っており、資料を作ろうかと思っていましたので嬉しいです。
ありがとうございました。

このほか、10月18日（金）に、鹿児島県霧島市の中学校の生徒さんから事務局に電話があり、点字の見本を送ってほしいと依頼されましたので、早速、Lサイズ点字の見本5組を送りました。

日本点字普及協会 事務局

〒242-0015神奈川県大和市下和田721

携帯電話090-4854-8552（藤野）